誰あつて百年の齢を保つべき槿花一日の栄と心を観
ずれば千年の如し大寺義寛公天正十八稔の三月の中
旬箕中方相伴ひ第山平清水の大日如来へ詣て絵図
を見るに澄田川ながしの水など遊覧
あり千軍山の古屋の松を尋ねて其日西に傾くまで遊
ひめへを覚松寺と云山林を假舎として寒方中將の
旅所を設あり昔殿上の人々花見んとて東山に出
しなりけるに俄に雨降り人々周章のありけるに寒方
有りて其者にて一首をかくぞ詠じける

桜ちるあるうきまを因しては
ぬれもこそ花の庵に宿るべしん

と詠みて雨に濡れて帰来たぶり待りけるとや
此の興ある事に人々思ひあはせけり又の日行成
其時に藤人宿にて歌ハ
至り寒方ハ嗚呼なると宣ひけり此事伝寒方
世聞き給ひて深く恨み給て殿上を不怪筋を
以て行成の冠を打落さるを行成さるを拝して
冠を着し髪掻合せ色を損じて見ハ如何